

Think & Act

1. 食の安全を追求します。
2. 健康な食べ方を大切にします。
3. 国内自給力アップをめざします。
4. 遺伝子操作を行なった食物を認めません。
5. 有害物質ゼロをめざします。
6. 自然資源を大切に使います。
7. 温室効果ガスの排出削減をめざします。
8. 再生可能エネルギーを推進し、原発のない社会をめざします。
9. おたがいにたすけあう社会をめざします。
10. 誰もが安心して暮らせる場やしくみをつくります。
11. 自分たちで決めて、自分たちで実行します。

平和への活動につながる民衆交易 ひとからひとへ、手から手へ。



エコシュリンプやバラゴンバナナなどの生産者である(株)オルター・トレード・ジャパン(以下ATJ)主催の「民衆交易フォーラム」が10/8(日)に東京で開催されました。オンライン参加39名を含む総勢156名が参加。都市生活からも7名(うち5名がオンライン)参加しました。海外6か国のパートナー団体からも参加があり、「現地の今」を聞き、私たち消費者の声を届ける貴重な機会となりました。

● そもそも「民衆交易」とは

南(開発途上国)の人々と、北(先進国)の私たちが対等な立場で「モノ」を交換すること。南の生産者は自分たちが作った農産物や水産物を適正な価格で日本に届けることで経済が安定し、日本の消費者は現地の環境や人々の暮らしを壊さず生産されたものを、食を奪うことなく安心して利用できます。フェアトレードと少し似ていますが、お互いに助け合う関係『ひとからひとへ、手から手へ。』が民衆交易の大きな特徴です。

● 魚ではなく、魚をとる網が欲しい

1980年代半ば、砂糖の国際価格暴落により飢餓に陥ったフィリピン、ネグロス島の人びとへの支援活動をきっかけに、1986年に日本ネグロス・キャンペーン委員会が立ち上がり緊急支援しました。その際、現地から「私たちは魚が欲しいわけではない。魚を取る網が欲しいのだ。自分たちで食糧を生産できる農民になりたいのだ」との言葉*があり、一時的な援助ではなく自立を支援する仕組みづくりへ舵が切られ、マスコバド糖の輸入＝民衆交易が始まりました。その後、継続的に支援するため、バラゴンバナナも取り扱うことに。それをきっかけに1989年にATJが設立され、1994年に生協都市生活(当時)でバラゴンバナナの共同購入が始まりました。

● 「紙袋ほどの軽さ」「パレスチナの涙」

フォーラムでは、民衆交易事業の歴史、各団体の取り組みなどが報告されました。グリーンコープ・ワーカーズ連合会顧問の

行岡良治氏から、取組み開始時に現地を訪問した組合員の言葉「飢餓に苦しむ子を抱いた時、紙袋ほどの軽さだった」を聞いた時は胸が潰れそうでした。私たちにできることは何かを考えた時、魚ではなく魚を取る網が…が思い出されます。また、韓国のドゥレ生活協同組合ではオリーブオイルを『パレスチナの涙』と呼んで共同購入しているそうです。

● 社会が抱える課題解決に向けて

ATJの民衆交易による消費材はもちろん、私たち生活クラブの消費材を利用することは、社会のさまざまな課題解決につながります。よく耳にする「買い物は投票だ」は正にそれで、何をどこで買うか、が大切です。“モノ”が作られる向こう側に思いを馳せ、背景を考え選択する。おおぜいの「私」が共同購入をすることで社会を変えることは可能になります。民衆交易事業もまた、現地の生産者の生活を確かに変えたのだということ、このフォーラムで生産者と語り合うことで改めて実感できました。(理事 草野睦美)



ATJの公式サイトはこちら→



2Pに続く



*出展：ATJ編集・発行「コトからモノへ、モノからコトへ」民衆交易」始まりの物語」



公式ウェブサイト

機関紙「都市生活」カラー版既発行分はこちらで。



Facebook ページ



Instagram

エコシュリンプの生産者と交流しました



ATJ 山下万里子さんと ATINA ハリー・ユリ・スサントさんをお招きして

2023年10月11日、中央区文化センターで開催しました。参加者は29人でした。

社長の山下さんから、ATJ(オルター・トレード・ジャパン)の民衆交易の始まりはマスコバド糖から。その後バランゴンバナナ、エコシュリンプ、ゲランドの塩、コーヒー、オリーブオイル、カカオなどにまで広げ、生産者の自立した暮らし、消費者の食の安全、自然環境との共生を目指して活動していることを聞きました。

ATINA(オルター・トレード・インドネシア)のハリーさんからは、エコシュリンプが組合員に届くまでのプロセスや、気候変動の影響、稚エビの入手の難しさ、エコシュリンプ(ブラックタイガーエビ)と一般のバナメイエビの違いなど、生産者の現状を取り巻く情報を話してもらいました。



前列中央が山下さんとハリーさん



エコシュリンプ・インドネシアの現地生産者とリモートでつなぐ



2023年10月27日、中央区文化センターで開催。会場の参加者(17人)とスラウェシ島の生産者(11人)、シダルジョのATINA(4人)、自宅の組合員(5人)、クッキングルームの組合員(3人)の5か所とつないで交流しました。会場でATJの黒岩さんから民衆交易の説明やエコシュリンプの粗放養殖と現状についての話。スラウェシ島からは、現地の池の様子(池干し)を見せてもらいました。池にエビがいない時期があることを知りました。

生産者から、洪水被害により自分の池を手放したが(お金が貯まったら)また自分の池で養殖をしたいとの話を聞くことができました。クッキングルームからエコシュリンプの料理(エビフライ・チャーハン)を生産者に直接見てもらうことができました。市販のエビとエコシュリンプの食べ比べでは違いがはっきりわかり、ビックリしました。
(理事 片山由香里)



スクリーンの向こうには現地の生産者さん

エコシュリンプを食べることで生産者を応援している事、生産者とATINAと一緒にって取り組んでいる事を、もっともっと多くの組合員に知ってほしいです。



鹿児島県産大根の寒干したくあん

186円(税込201円)



息子がたくあんが好きなのですが、スーパーや道の駅で買おうとすると着色料や保存料の表記が多く、もうこれは仕方がない事なのかと感じていました。それだけに、数年前に食べるカタログでこのたくあんを見つけた時は「食品添加物の表記がない!？」と衝撃でした。

以来ずっと我が家のお気に入りです。イチヨウ型に切ってご飯のお供にするのはもちろん、細切りにしておにぎりやちらし寿

司、お茶漬けに入れていただいています。ポリポリとした食感が心地よく、家族にも好評です。見逃さないように、インターネット注文でお気に入り登録もしています。

「他では手に入らないもの」が多い生活クラブですが、漬物は特にそう感じています。皆さんもカタログの原材料をじっくり見て、お気に入りの漬物を見つけてくださいね。

(大畑彩子)



兵庫の味で日本型食生活④

JA兵庫六甲交流会



「環境創造米キヌヒカリ」は、環境にやさしく、かつ農業がこれから先も続けられる、そんな米作りを目指して、私たちとJA兵庫六甲で始まった取り組みで、2006年に生まれたお米です。

そんなお米を作ってくれる生産者と私たち組合員をつなぐJA兵庫六甲、神戸北宮農センターの尾持祥子さんをランチ神戸学園都市にお迎えして、学習会を行いました。



講師はJA兵庫六甲の尾持さん。

「環境創造米キヌヒカリ」ってどんなお米？

「環境創造米キヌヒカリ」は100%神戸市北区産で、六甲山の裏側、三宮から車で30分のところで作られています。

兵庫県の慣行栽培基準は農薬成分回数20成分ですが、「できるだけ農薬を減らしてほしい」という組合員の声に応え、9成分まで減らして栽培しています。それが認められ、兵庫県認証食品(ひょうご安心ブランド)に認証されています。

生産者は取り組みを始めた当初、29名でした。今は75名。栽培面積は約3700a、分かりやすく例えると甲子園球場の10個分弱です。

水系(環境)を守る

「環境創造米キヌヒカリ」の産地、神戸市北区から流れ出す水は、西は加古川へ、東は武庫川へと注いでいます。上流にあるこの地域で農薬使用量を減らすことは、下流で生活する人々の水環境をよくすることにつながっているのです。

ミネラルたっぷりの田んぼの水は、稲と同時にたくさんの生き物も育みます。毎年JA兵庫六甲にある「交流の田んぼ」で、組合員家族・精米会社・JA・生産者が参加して開催される田んぼの生き物調査では、カエルとともにコオイムシ(国の準絶滅危惧種)が見られます。イトミミズ、ユスリカといったコオイムシの餌になっ



ご飯に合うおかずとともに試食。

てくれる小さな生き物もいます。農薬を減らしてお米を栽培されている田んぼは生態系が豊かで、環境を守っていることが確認できますね。

生産者と共に取り組む「環境創造米キヌヒカリ」

生産者と私たち組合員は、田植え、田んぼの生き物調査、稲刈りなどの交流を通して信頼関係を築いてきました。

この頃の急激な円安やウクライナ問題による生産資材の高騰、生産者の高齢化、後継者不足、加えて気候の変化など課題は山積みです。しかし、私たちが食べることで、地元のお米を将来にわたって確保することができるとともに、生産者も安心して作り続け、水田を守ることになるのです。(理事 平岡真弓)

「よやく・る」して、私たちのお米「環境創造米キヌヒカリ」を食べましょう！



保存容器で冷凍！即席みそ汁の素

< 材料 >

- ・みそ 200~250g ほど ・顆粒和食だし 少々
- ・にんじん 1/5 本 ・エノキ茸 25g (1/4 束) ・うすあげ 1/4 枚

< 作り方 >

- ① にんじん、エノキ茸はできるだけ小さく切り、レンジで加熱して、冷ましておく。
- ② うすあげも小さく切る。
- ③ 冷凍保存できる保存容器に直接みそと顆粒和食だし、①、②を混ぜて入れ、冷凍庫に入れる。

冷凍した味噌は凍らないのですぐ取り出せます。野菜は凍るので小さく切つてね！



- ④ 飲みたい時、大きじ1をお椀に入れ、熱湯を注いでできあがり。みそ汁の濃さは好みで…。

※大根や塩抜きしたわかめ、小さく切った切り干し大根を入れてもOK！中身は工夫していろいろ試してみてくださいね！



で、小さなたすけあいを育む

10月21日(土)に生活クラブ連合会主催「2023年度エッコロ制度活動交流集会」がオンラインで行われ、生活クラブ独自のたすけあい制度「エッコロ」について、様々な角度から情報共有を行いました。

地域づくりは“思い”から

基調講演として、東北公益文化大学の鎌田剛先生のお話を伺いました。鎌田先生は、2022年山形県庄内地方にできた生活クラブの移住・交流拠点「TOCHi TO」を一緒に作りあげてきた方です。

「TOCHi TO」以外にも様々なコミュニティスペースや地域づくりに参加されており、それらが始まったきっかけと共に「“思い”をもった参加」と「責任としての参加」の違いを紹介して頂きました。

「この地域を元気にしたい」「病後の人にも食を楽しんでほしい」など“思い”を持って集まると、どんどん人の輪が広がっていく…理想的な集まりの姿を見せて頂きました。

「エッコロ」の目指すもの

目の前の問題に都度対応していく「フォアキャスト」に対して、将来のあるべき姿(理想・目標)から逆算して取り組む「バックキャスト」でエッコロの事を考えよう…という話がありました。

2015年に始まった都市生活のエッコロたすけあい制度は、2021年に全組合員向けのアンケートを実施し1年かけて制度改定を行いました。この時検討した事はまさに「逆算」です。

困った時、身近な人に「手伝って」と言うのは勇気がいられます。個配が増え、近所の組合員と知り合う機会も減りました。ただ、「困っている人がいるなら手伝いたい!」という思いを持っている人は、都市生活にはたくさんいます。アンケートからもそれを強く感じました。



似た価値観を持つ組合員どうしが知り合い、小さなケアを通して日頃から少し気にかけて合う、それが、急なケガをした時、体調がすぐれない時、あるいは地域に災害が起きた時の備えになります。

地域づくりの最小単位は1人1人の繋がり。エッコロが目指し、大切にしている事です。

＝＊＝＊＝＊＝＊＝＊＝＊＝＊

これからも、この制度の事を丁寧に説明していきたいと改めて感じた交流会でした。(理事 大畑彩子)



100円のたすけあい
 問合せ先：組織部(078-904-3260)中田

エッコロサークルをご存じですか？

エッコロサークルは、加入者どうしの出会いの場や気軽に交流できる機会を作る、エッコロたすけあい制度利用のしくみです。サークルはエッコロ加入者3人以上で結成できて、年間1名につき800円/上限5000円の活動補助があります。この活動補助は、サークルとして交流する際のお菓子やお茶の購入費に

9月 エッコロたすけあい制度利用状況

加入者	1,364人	給付申請件数	16件
給付金額	16,400円	事務費 [※]	47,236円

エッコロ講座開催1件 ※キャンペーンチラシ印刷費を含む

も使えます。
 班でも個配でも、もし3人以上知り合いがいれば、まずはサークルを作ってみませんか。生活の楽しみや視野を広げたり、忙しい中でのほっと一息つける場として、サークルが一役買えばと思います。(コーディネーター 重田聖子)

バーチャル・バスツアー企画

10月10日(火) 参加者21人(会場12人、Zoom9人)



「ふくしま」へ行こう！を開催しました。

お話は、飯館電力株式会社の千葉^{のりみち}訓道さん、米澤^{いちろう}一造さん。昨年開催した第一弾は、原発事故の悲惨さ、飯館村でなぜ電力会社が出来たかなどが主なお話でしたが、今回は、原発事故から10年以上たった福島現状を含めてのお話でした。オンラインを取り入れ、昨年より参加者が増えました。

まず、福島の駅に新幹線が到着するところから始まり、駅から本当にバスに乗って視察しているかのように映像とお話が進んでいきました。Googleアースを使った世界の再エネ視察ツアーに組み込まれていました。

避難指示解除出来ない「帰還困難区域」の面積の1割ほどだけを除染し、そこに「特定復興再生拠点」と称して行政や商業施設及び住宅を集約して、帰村希望者はここに住んで下さい、との帰村政策が押し進められています。汚された大地は全て元に戻す！との約束は既に反故にされています。映像でも、お墓参りができるように除染している墓地の周りから一步はずれると、立ち入り禁止エリアになっていました。

最後に、「感情論はもう必要ありません。なぜ原発が必要なのかを、はっきり根拠をもって示したい」とお話されているのが心に残りました。(理事 岸本麻紀)



再生可能エネルギーは、未来を拓くエネルギーです。私たちは、何をかうのか、どんなでんきを選ぶのかで、未来を変えることができます。賢い生活者になりましょう!!

生活クラブでんき契約者対象「秋のティーパーティ」開催報告

参加者9人、スタッフ4人、職員3人
会場：西宮市消費生活センター学習室。

6月に開催した「夏のお茶会」で、多数の申込を頂きながら抽選でお断りしたため、同様の企画を9月21日に開催しました。

生活クラブを信頼しているから契約した

はじめに生活クラブでんきに加入したきっかけを伺いました。「原発がイヤだから」「生活クラブを信頼しているから切り替えた」という声がとても多かったのが印象的でした。原子力発電の歴史、再エネの国内外の最前線、生活クラブでんきについて情報を共有したあと、消費材のケーキやクッキーなど頂きながら、利用者同士お喋りを楽しみました。

生活クラブでんきを皆に知ってもらいたい

参加者からは「再エネをメインとする生活クラブでんきをもっと広めたい」という感想を多くいただきました。また「再エネ100%プランという新プランを知らなかった！」(通常は再エ



ネ率約85%のスタンダードプラン)、「あるなら入りたい」という声もありました。今後は新規利用を促すチラシを発行するだけでなく、利用している組合員にも、有益な情報や学習会などを提供する必要性を感じました。安心安全な食べ物を食べ続けるためには、土や海が汚されない事が一番。そのためにも、「生活クラブでんき、いいよね～」と言い合える場を、これからも作っていけたらと思います。そして、「難しいことは分からないけれど、やっぱり原発はイヤだなあ」と思う方、生活クラブでんきに、ぜひチェンジ下さい。同じ想いの仲間が、生活クラブにはたくさんいます。(理事 内田瑞穂)



同じような問題意識のある組合員が集ったからか、気を遣わずに思うことが話せる場になりました。

姫路支部

楽しく学べる企画を！

今年5月に5類扱いに移行した新型コロナウイルスの感染拡大は、全国的にもまだまだ治まっておらず、インフルエンザの同時流行もあり、支部活動ではモニット数や当日の参加者数もなかなか増えない一年でした。

それでも9月に開催したエコロ講座「女性のためのアーユルヴェーダ」では、8名の参加者があり、11月のアロマセラピー講座では「ハンドマッサージ」をテーマに、12名の参加で開催できました。

4年ぶりに開催された「第30回生協祭あいたくて」では、エスケー石鯨・兵庫県漁連・六甲ビールを担当し、生産者と組合員との交流もでき、改めて、直接交流のできる機会の大切さを実感しました。

時代の様々な変化を受け入れ、柔軟に対応できるよう工夫し、各方面とよりよい関係性を築き、さらに明るい未来を繋いでいけたらと考えます。

姫路支部は、来年度も楽しく学べる企画を開催していきますので、お気軽にご参加ください！

(姫路支部クリエイター 山田美奈子)



エコロ講座「女性のためのアーユルヴェーダ」



サフラン茶とレーズン・ナッツ (小腹が空いたときに少量口にするといい)



エコロ講座は個人(エコロサークル)でも開くことができます。

大好きな消費材

＝ 発芽はとむぎ茶 ＝

180g(6g×30) 595円(税込643円)

今年の3月の姫路支部のついでではじ

めて(有)高千穂漢方研究所さんのお話をうかがったのが、飲み始めるきっかけになりました。試飲してみると、とにかく飲みやすい！おいしい！と思いました。ハト麦は良質のアミノ酸からなるたんぱく質を多く含み、脂質やカルシウム、鉄、ビタミンB群などの栄養素が豊富に含まれていて健康維持や美肌効果もあってしかもニキビにも効果的との説明もあります。これから思春期を迎える長男のニキビ予防になればいいなと思って子どもたちに飲ませてみると、大好評！！また、私は子どもたちにも健康のためにも寝起きに白湯を飲んで内臓を温めてほしいなおもっていますが、子どもは全く飲んでくれません。でも、あたたかいこの発芽はとむぎ茶なら飲んでくれます！特に長男は濃い目に出した発芽はとむぎ茶に砂糖とミルクで飲むのがお気に入りです！ノンカフェインで原料すべてが国産なのうれしいですね！ぜひ一度飲んでみてください！

(姫路支部クリエイター 藤本優子)

今月の組合員

母親が30年以上前から組合員で…

中山 ゆかさん 姫路支部 2016年3月加入

母の勧めでわたしも結婚と同時に始めました。子どもの頃、なんでうちのケチャップはびんなんだろうと思っていたのですが、いざ自分が母親となり添加物等のことを知ってからはびんで育ってきて良かったなと思ってます。料理のお砂糖が茶色かったのも納得です。

ここ数年は支部ミーティングにも参加して消費材のことを学んだり、今では母親よりも生活クラブの消費材のことが詳しくなってます(笑) 生活クラブの調味料は安心かつ万能で毎日の料理にかかせません。自分の子どもたちも生活クラブの調味料で育ち、大きくなったら同じように良かったと思ってもらえたら嬉しいです。

徒然都市生活

30年前は月1回の注文でした

常任理事 中里 千晴さん

生活クラブ生協都市生活は1986年設立。今年で設立37年になります。今年度は設立当初から現在に至るまで、活動してきた仲間に「都市生活の今・昔」を語ってもらいます。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

私が加入した30年ほど前は、今のようなカラーのカatalogではなく、一色刷りの地味なCatalogでした。全部の消費材に写真が付いているわけでもなく、名前だけ見ても「これっていったいどんな物？」という消費材もあったりして。

今は注文すると、せっけんなど一部を除いて翌週には配達されますが、その当時の注文は月に1回、一カ月分をまとめて注文するシステムでした。4週先の予定までは立てにくく、つつい第4週の注文は控え気味になっていました。まだ若かったですし。

個配はなくて班のみで、代金の引落しも個人毎ではなく、班代表を決めてその人がまとめていたので、毎月お釣りのないように小銭を用意して、持って行って行っていました。それを郵便局に入金しに行く班代表は、もっと大変だったと思います。

班に配達される消費材は、今のように個人別に仕分け袋に入っておらず、発泡箱の中から自分が注文した物を取って行く方式でした。他の人が利用しているものが目につき、「これって美味しいんですか?」「これはこんな風に調理するといいのよ」のような教え合いも生まれました。

今はいろいろ便利になりましたが、昔は不便な中にも人とのつながりを楽しめた時代だったかなと懐かしく思います。



活動中の中里さん



1999年12月のカタログと消費材一覧部分の拡大写真

理事会報告

2023年度第6回理事会報告 2023.10.30.10:00~15:15 於:中央区文化センター
出席理事:19名、出席監事:3名

以下、報告承認事項(2項目省略)・協議決定事項(1項目省略)

1. エッコロたすけあい制度給付審査は、エコロ審査会にて9月申請分16件中、16件承認。
2. 生活クラブ関西運営委員会の会議報告を受け、内容を確認。
3. 上関町「中間貯蔵施設」建設中止を求める署名取組みの提案を受け、承認。
4. 第6回とことこレシピコンテストへの協賛について原案通り承認。
5. 生協祭あいたくでの実績報告等、振り返り事項を協議。
6. 11月合同クリエイター会議の企画内容について協議決定。
7. 2024年度活動方針(案)の骨子について協議決定。
8. 2023年冬 生活クラブ牛乳アンバサダー活動の提案を受け、承認。

(会議報告)

生活クラブ連合会の機関会議、各担当理事会、TCC理事会の会議記録をもとに共有。

(事業報告)

9月度決算報告を確認した。供給高は予算比104.0%と超過、供給剰余率は予算を下回った。経費執行はほぼ計画通りの執行で、経常剰余は予算比+260万円となった。9月度加入は111人(計画比▲23人)、脱退は87人(計画比+7人)、純増数は計画を下回った。

～兵庫県生協大会で表彰されました～

10月26日、兵庫県民会館けんみんホールで、「2023年度兵庫県生協大会」が行われました。生協活動への長年の功勞に対して表彰が行われ、前専務理事の角田学さんが「兵庫県知事感謝」を、現監事、元常任理事の高岡敦子さんと、職員で管理部管理部長の前下秀治さんが「兵庫県生協連合会会長表彰」を受賞されました。お三人ともおめでとうございました。



左から高岡さん、角田さん、前下さん

年末年始も忘れずに注文しましょう！

新年の食卓も消費材を使って。 生活クラブだから、納得のおいしさ。

コロナ禍が明けて、やっと何の制限もない「いつもの年末年始」を過ごせると、家族や友人との集まりに心弾ませておられる方も多いことでしょう。元旦から営業しているお店も多いので、わざわざ買い込んでおこななくても、いざとなったらいつでも買いに行けるこのご時世ですが、スーパーなどで並んでいる市販の加工品には、見栄え・食感をよくし日持ちさせる為に多くの添加物が入っています。しかし、生活クラブの迎春消費材は、厳選した原料で消費材基準に則って作られた生活クラブオリジナル仕様。また、忙しい家庭が増えてきていることに合わせて、切るだけ、温めるだけで手軽に食べられる消費材も増えています。

是非、お正月のハレの日の食事にも、素材の味を活かしたシンプルで美味しい消費材を活用して、みなさん笑顔で食卓を囲んでください。年内にお届けの注文は、まだ間に合います。

注文書提出を忘れないで！

今年の年末の配達は12/29(金)まで、 新年の配達は1/8(月・祝)から！

今年最後の配達から来年最初の配達まで、まるまる2週間配達がありません。お祝いの席の献立を考えることで頭がいっぱいで、お正月が終わって冷蔵庫を開けたら「空っぽ」。そんなこ

年末最終週（12/25-29）配達

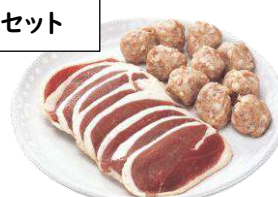
12月4回カタログで注文できる消費材



雄武産紅白刺身セット



鴨鍋セット



戸隠そば



とにならないよう、いつもより早めにカタログを見て、2週間分の注文を計画的に上手に組み立ててみてください。「よやく・る」で登録しておくこともおすすめです。

注文しておいた消費材が届き、空っぽの冷蔵庫が満たされて、慌ただしい年末の体調を整えつつ、新年を迎えたあとも元気に過ごせるはずです。

職員こぼれ話

本部センター
美浪 達也

生活クラブ生協の職員が、日ごろの業務、身のまわりのできごとを通して見たもの、聞いたことをお伝えします。

1年ぶりのポケット

みなさんこんにちは！本部センターの美浪です。勤続4年目に入りました。『笑顔を決やさない』これをモットーに日々励んでおります。11月に入り少しずつ肌寒くなっております。制服も赤色のジャージから紺色のジャンパーに変わるわけですが、朝方に寒いなあと思いながら1年ぶりに袖を通したジャンパーのポケットに手を突っ込むと、目薬が出てきました。私服ではゴリラのぬいぐるみが出てきたりピンポン玉が出てきた事もあります(笑)

ポケットの中って夢がありますよね！ちなみに配達中、美浪のポケットには「きゅん♡」が入っていますよ！こんな僕ですが、これからも組合員さんとの時間を大事に楽しみながら頑張っていきたいと思えます。

機関紙モニターのつがやき

2023年10月号より
グリーンシステム

生活クラブのびんリユースシステム、とてもいい取り組みだと思っています。私個人的には、自治体の回収に出すのは面倒だけど、Rびんだと毎週の配達時に玄関先で完了するのが手軽でありがたいです。今回の記事では洗びん工場のお話が載っており、初めて聞くお話だったので興味深く読ませていただきました。ラベルが剥がされていれば洗浄水の温度を下げてもさらに環境に優しいと知り、勉強になりました。(東神戸 I・R)

編集雑感

ずっと暑かったのに急に寒くなりました。秋はどこに行ったのでしょうか？山に住む動物も気候の異変に戸惑ったように人里に出没したりしています。動物には何も罪もないのに、人の生活を脅かすものとして駆除されます。なんだかおかしな時代です。(T)